

大学院  
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部  
(男女共学)

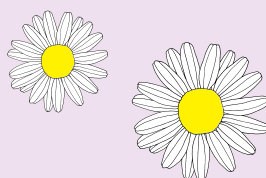
幼稚部  
(認定こども園・男女共学)

## Contents

特集

コロナ禍の授業  
～オンライン授業と対面授業～ … 2～7

- 学園各部報告 … 8～11
- 同窓会だより／マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

CAMPUS NEWS

# 特集

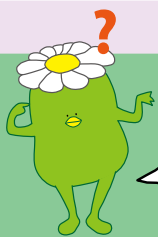
## コロナ禍の授業 オンライン授業と対面授業

新型コロナウイルス感染防止のため、大学・大学院・短期大学部では、春学期はオンライン授業を中心に、秋学期はゼミや実習などで対面授業を一部再開するとともに、引き続きオンライン授業を実施しています。また、併設各部では、6月以降、対面授業や部活動が再開され、各部に賑わいが戻りました。

現在も続くミゼコロナ時代、各部の教育活動はどのように行われているのでしょうか。



相模女子大学 学園キャラクター  
さかっぱ・ジョー



おしえて！  
オンライン授業って  
何してるの！？

### Q. オンライン授業とは??

パソコンやタブレットなどを使い、メディアを利用して行う遠隔授業。本学では、授業を支援するシステム「manaba」を用いて、講義資料の配信や課題提出などを管理し、オンライン授業を実施しています。

#### オンライン授業の 主な種類

##### ●同時双方向型(テレビ会議方式等)

多様なメディアを高度に利用して、教室以外の場所で履修する授業のこと。

**Point!** 教員と学生が互いに映像や音声等によりやりとりができる！

##### ●オンデマンド型(インターネット配信方式等)

あらかじめ録画した動画や、オンライン教材等を用いて行う。

**Point!** 学生が授業や教材を繰り返し視聴することができるため、反復学習に適している！

\*出典：文部科学省ホームページ (<https://www.mext.go.jp/>)



「manaba」のログイン画面



## 豊かな コミュニケーションの 実現を目指して

メディア情報学科 教授 加藤 由樹



プログラミング教育が始まったり、データサイエンス教育の必要性が指摘されたりと、小学校から大学まで、教育現場にも近年これまで以上に強力な情報化の流れが押し寄せています。一方、大学では、授業を担当する教員の教育に対する信念が尊重され、例えば授業で情報機器を取り入れるかどうかといった判断は、個々の教員の理想とする教育に基づいているわけです。しかし、今年度春学期、大学のすべての授業が初回からオンラインで始まり、これは学生の皆さんだけではなく、教員にとっても非常に大きな試練でした。理想の教育をオンライン上でどのように提供するかという今回の突然の課題は、教員の誰にとっても未知のものでした。つまり、一人ひとりの教員が試行錯誤をしながら解答を探していく活動が、今回のオンライン授業で行われています。こう書くと、未完成の授業を提供しているように思われる方もおられるかもしれませんが、しかし、完成された授業などはないのではないのでしょうか。私は、完成品と思いついて毎回同じように実施される授業よりも、常に改善を検討しながら進められていく授業の方が魅力的な授業だと思います。

教員にとって授業が成功したと感ずるのは、学生の皆さんの知識やスキルが高まっていって、判断力や応用力が身に付いたことを確認できたときであるのももちろんです。しかし、これは半期の授業の終了時点のことです。授業の中で、学生の皆さんが発言をしたり、質問をしたり、学生同士が議論をしたり、つまり学生の皆さんが主体的に学べるように運営できたとき、その回の授業は成功したと思います。今回のオンライン授業でも、学生の皆さんの主体的な学びを継続するために工夫していくことが最も大切だと私は考えました。

主体的な学びの鍵は、コミュニケーションです。オンライン上では、教員や学生の皆さん同士の距離が、地理的だけでなく心理的にも広がります。これを軽減するために、オンライン教育の研究で指摘されているのが、授業参加者の存在感を高めることです。お互いに人間味のある感情豊かなコミュニケーションを行うことで、オンライン上でも十分に存在感を高めることができます。参加者の存在をお互いに感じられることで、質問したいときに質問でき、発言したいときに発言できる環境が、オンライン授業でも実現できるのです。

学生の皆さん一人ひとりの個別のパソコンやスマートフォンの画面には、授業資料が映っているだけではなく、生身の教員や仲間が科目ごとに存在していると感じられるようになれば、対面の斉授業では難しい魅力がオンライン授業で提供できると思います。



## コロナ禍でのチャレンジ！

英語文化コミュニケーション学科 教授 小泉 京美

ITに決して強くない私は、教員生活の中でICT教育とは無縁だと思っていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、私にとって新しい授業形態を生み出す絶好の機会となりました。

今年は春ゼミ合宿を中止としたことから、新3年生がゼミに慣れるために3月からWEB会議システムZoomを使ってプレゼミを開始しました。これが功を奏し、私自身が行うオンライン授業の準備が3月中に整いました。オンライン授業と一言で言っても、「課題提出型」「リアルタイム」「オンデマンド」「リアルタイム+授業ビデオ配信（ハイブリッド型）」の4種類に分類されます。まずは学生も教員もオンラインシステムに慣れ、オンライン授業に対する学生の不安感を払拭するために、学科独自の取り組みとして「オンラインZoom模擬授業体験会」を開催しました。また、学生の疑問を解消するツールとして「FAQ」を使った「学科専用オープンチャット」を開設しました。この2つの取り組みは、オンライン授業へのスムーズな移行と、学生の「疑問があっても、質問出来る人がいない」という不安を「ゼロ」にすることができました。

次にチャレンジしたのは、「オンラインおりひめ祭」です。「おりひめ祭」とは日本の伝統文化を見直す一日という位置づけで、七夕の時期に浴衣で授業を受講する取り組みです。今年はZoomを使って「日本文化演習」の履修生を中心にオンラインで開催し、コロナ禍での医療従事者や関係者に感謝を伝えるメッセージ動画を作成しました。

またオンラインで進めてきたゼミ運営のコミュニケーション不足を解消する狙いで、8月に3日間の「通い夏合宿」を実施しました。3密を避けるため大学の体育館を活用してチームビルディングをしたり、ゼミ討議はZoomを使って4教室に分散して各教室を結ぶなど、オンラインの良さを取り入れた実施方法で、遠方の学生も帰省先から参加することが可能となり、学生同士の親睦も深めることができました。

コロナ禍で生まれたこのような新しい授業形態は、どれも新型コロナウイルスが終息しても続けていく価値があるものです。新型コロナウイルスは、授業への新たな可能性を生み出す機会を教員に与えてくれたのではないかと考えます。



「通い夏合宿」でヨガに取り組む様子



「オンラインおりひめ祭」の様子



オンラインで  
こんなことしました!!

大学・短期大学の学生がオンラインで行った取り組みを紹介し、通常なら、教室で出来たことも、オンラインで話し合い、分担し、成し遂げました。

オンラインでも、  
いろいろな  
取り組みが  
できるんだね!  
すごーい!



## 長野県栄村で九里ゼミナールが 「ワーケーション・遠隔授業実証実験」を実施

英語文化コミュニケーション学科・九里徳泰教授

都道府県境を越える移動制限が全国で解除され、6月から8月にかけて14日間の「ワーケーション・遠隔授業実証実験」を学生9名と教員1名で実施しました。この企画は、学生たちが新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による4月からの自粛生活と、パソコンでの遠隔授業による「コロナ疲れ」が出ており、思いっきり自然と触れ合って欲しいということから実施しました。また、感染拡大で打撃を受けている地域での実態調査と地域活性化の提案として、ゼミナールの研究分野「観光地域活性化」の現地調査を考えました。今回は感染症対策をしながら、地方の観光問題を打破するワーケーション（「ワーク」と「バケーション」の造語で、休暇中に一部働くこと）の手法を導入して実施しました。受け入れ側の栄村には快諾いただき、秋山郷雄川閣石坂大輔社長からは、3密を避けた宿泊を提案いただき、本学の感染拡大防止ガイドラインに従い実行しました。



平日は各自持参したノートパソコンで遠隔授業を受講し、他の時間は散歩をしたり、温泉に入ったりと自由に過ごしました。また休日は、地域へ観光資源のヒアリング（村議会議員、村職員）や視察を行いました。学生からは「ゼミの友達と会話できることがうれしい」「温泉に久しぶりに入って、リラックスできた」との感想がありました。

このワーケーション実証実験を  
発端に「秋山郷のマガキ文化伝承  
プログラム」と「自然体験プログラ  
ム―旧草津街道の探索、百名山苗  
場山登山」を学生とともに発案  
し、12月から実施する予定です。

## コロナ禍におけるデザインの取り組み ―ルミネ町田1階ショーウィンドウの デザイン・制作―

生活デザイン学科 牛尾卓巳准教授

生活デザイン学科では今年度初めから9月にかけて「ルミネ町田 & JEANASTS & 相模女子大学」コラボレーション企画として、ルミネ町田1階ショーウィンドウのデザイン及び制作を行いました。これはファッションショーの一環として行われた企画で、デザインしたディスプレイは9月10日（木）〜30日（水）に展示されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で外出が制限される中、4



月から有志の学生と「Zoom」を利用して週1回のオンラインミーティングを開始しました。今季のMDディレクションテーマ（販売におけるテーマ）を読み取り、先行事例やビジュアルイメージをオンライン上でリサーチし、そのデータは「ZED」を活用して学生同士で共有することでより多くの情報を得られるようにしました。これらの資料をもとにデザイン案を作成し、6月にルミネ町田様に提案、その後デイスカッションとブラッシュアップを繰り返してデザインが決定しました。装飾パネルはオンラインショップで材料や小道具の施工をしていただき、学生がデザインが素晴らしい形で現実のものとなりました。

今回の企画を通して実社会におけるデザインの意味を再認識できたことに加え、アフターコロナでのデザインのあり方を考える上でも大きな収穫になったのではないでしょう。

## SNSを活用した「ぴよにわ子ども食堂」の実施

食物栄養学科 児玉小百合准教授

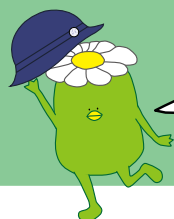
「ぴよにわ子ども食堂」は、食物栄養学科で栄養士を目指して学ぶ学生たちが、地域のボランティア団体「あいの和」とJA相模原市の協力を得て、栄養指導のゼミナール活動として2018年度より月1回開催してきました（ユニコムプラザさがみはらモデル事業）。

今年の春学期は、12名の学生が期待を胸にゼミナールを履修しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で対面式の子ども食堂はできなくなりました。そこで感染予防を考慮した「持ち帰り形式」の子ども食堂を9月に実施する目標を掲げ、学生達はテイクアウトでできるお弁当などのレシピ開発と発表会をオンライン上で行いました。しかし8月に入ると再び感染者が増加し、調理をとまなう活動再開は延期されました。せっかくのレシピ開発を活かしたいと考え、大学のホームページとSNSにて「応援レシピ」を発信する事とし、レシピの改訂と自宅での試作を重ね、「親子で簡単に作れる夏バテ予防・免疫力アップ」をテーマにレシピ紹介と栄養メモのスライドが完成しました。日頃ご支援頂いているボランティア団体の方には、事前にプレゼンテーションする場を設け、色々なアドバイスをいただき、学生達の貴重な学びになりました。また、今回の活動成果をポスターにして、ユニ



コムプラザさがみはらの「まちづくりフェスタ」に展示することでもできました。

今回のオンラインでの活動では、遠隔だからこそ互いに密にコミュニケーションをとり、ピンチを取り組む事ができ、また学生達のひたむきで前向きな姿勢に、大きな成長を感じる事が出来ました。



## 学校再開！

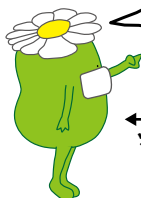
## 併設各部のコロナ禍での授業

～学びを止めない 各部の取り組み～

高等部・中学部・小学部・幼稚部では、6月以降、少しずつ通常の授業や登園が始まりました。

しかし、これまでと同じという訳にはいきません。現在も引き続き、感染症対策を講じながら、授業やイベント、部活動に取り組んでいる併設各部の様子をご紹介します。

いろいろ気を付けることがたくさんあるけど、やっぱりみんなで学ぶことができるって良いことがっぱね。



ソーシャルディスタンス



### 新しい生活様式で調理実習を再開

中学部・高等部では、これまでも家庭科の授業で調理実習における食中毒予防対策を万全に行っていました。コロナ禍における調理実習をめざし、調理師専門学校の感染症対策を参考に、抜本的に衛生対策と授業内容を見直しました。休校中は消毒のための備品を増やしたり、教員が試行錯誤しながら指導用のオリジナル動画を作成したりと、入念に準備にあたりました。

生徒が主体的に感染症予防に取り組めるように、実習に先立って行ったのが手洗い指導です。食中毒や感染症予防には手洗いが肝心です。「手洗いチェックカード」という教材を用いて、手洗い時の手指の汚れの残り方をチェックすると、思った以上に指の間や爪の周辺に汚れが残っていることに気づき、生徒たちは驚いていました。日頃から念入りな手洗いが重要だということが実感できたようです。

また、今年は家庭で過ごす時間が多くなりましたが、「こんな時こそ、家庭科の学習を実践しよう」と呼びかけました。オンライン期間中や夏休み期間中を利用して、多くの生徒が家庭で自主的に調理や製作に取り組んでいました。忙しい親のために食事を作ったり、調理実習のレシピをアレンジして自分のお気に入りのベーグル作りに挑戦したり、オリジナルマスクを作ったりと、工夫を凝らした料理や作品が多くみられました。生徒たちは多くの制約がある中でも「発想力」を発揮し、豊かな生活をつくっているようです。

(高等部 藤井)



調理実習での1コマ

### 中学部2年

#### 「野菜栽培」と「高尾山ハイキング」で自然体験



班ごとに選んだ野菜の植えつけ



野菜栽培の様子

中学部2年生は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった林間学校の代替の学習活動として、「校内での野菜栽培」と「高尾山ハイキング」を計画しました。いずれも、私たちの暮らしが、いかに自然の恵みに支えられているのかを実感することがねらいです。また計画から実施まで生徒自身が調査を進め、班単位で行動することから、一人ひとりの主体的な取り組みと協働が求められる活動となります。

「野菜栽培」は、秋植えの野菜について栽培方法を調べ、班ごとに栽培計画を立てました。9月上旬、JA相模原市の方にご指導いただきながら、慣れない手つきで植え付けに挑戦して間もなく2カ月、どの班のプランターからも、青々と元気な野菜たちが顔を覗かせております。毎日の水やりと観察記録の積み重ねで野菜への愛情も湧いてきているようです。

「高尾山ハイキング」も、現地集合、現地解散、登山コースの選択まで、すべて自分たちで行動計画を立てていきます。行事をリードする学級委員は、登山途中に班員で知恵を出し合ってクリアを目指すミッションを出そうと計画中です。

行事の内容こそ変更や縮小を余儀なくされましたが、生徒の試行錯誤によって、得られる学びは大きくなるものと期待しております。

(中学部 堤)

## 部活動の再開

中学部・高等部では、6月29日(月)より、部活動を開始しました。再開に向けて、顧問と2・3年生で各部の活動に合わせた感染症対策を検討し、テスト前までに1年生の仮入部の受け入れを行うことを最優先に活動を再開しました。活動は週2回とし、時間も17時まで。部室も3密対策で、使用せず、教室を利用しました。土曜日や日曜日の活動も行わず、対外試合など他校との交流はなしとなりました。

7月17日(金)以降は、定期試験終了とともに多くの部活動で新1年生が加わり、新鮮な雰囲気の中で活動が再開しました。この時期は3年生の代替大会についての検討が行われている段階で、大会などができるかわからない状況の中、部員は活動ができる喜びにあふれていました。

8月以降、活動日をさらに増やし、部活によっては、対外試合や他校の生徒と関わりが少しずつ再開しました。大会などで他校との関わりがある場合には、検温と健康確認書類の提出を徹底し、3年生の代替大会などが設定された部活もありました。10月末に行われたソフトボール部の新人戦では、通常であればグラウンド中央に集合して試合開始の号令がかかるのですが、今年度は感染対策のためベンチ前に整列して試合開始の号令となりました。

現在も感染予防の対策については部活ごとに工夫をしながらの活動を行っています。すべての活動が元通りに戻ったわけではありません。しかし、生徒たちは現在の状況に柔軟に対応しながら自分たちの活動を楽しんでいます。これからの充実した学校生活が送れる喜びを大切に活発な活動をしてほしいと願っています。

(高等部 小俣)



新人戦プレイボール! (ソフトボール部)

与えられた環境の中で、  
精一杯  
がんばって  
すい!!



## 始業時に「コロナ対策の全校一斉授業」を

### 小学部

小学部では、学校再開の日に、まず「コロナ感染予防と安心した学校生活を送るために必要なこと」をまとめた全校一斉授業を実施しました。この授業では、手洗いや消毒、ソーシャルディスタンスの必要性などを指導したり、コロナを利用した子ども同士のからかいなどが無いように指導しました。

### コロナ禍でも対話的な授業をできるだけ止めない

授業では、一人ひとりのスペースを空けて座席を配置しています。食事の時間も机を寄せ合うことを避けて、前を向いた形をとり、読み聞かせの映像などを流して、おしゃべりを減らすように工夫してきました。しかし、対話的に学ぶことは授業においてとても重要なことです。ですから、一人ひとりの考えの発表に関しては、制限をしません。一方で、グループでの話し合い活動は行わず、iPadのアプリケーション「ロイロノート」を利用して、個人の考えを全体で共有してから、それに対する意見を交換するなどの工夫をして授業を展開しています。



電子黒板で一人ひとりの考えを映す



iPad で一人ひとりの考えを共有



コロナ  
対策授業



コロナ感染予防のための授業

## WEBで行う朝会

全校一斉で集まるような朝会は、行うことができません。そこで、朝会は校長と副校長が手分けをして、低学年向けと高学年向けの朝会映像をつくっています。月曜日の朝は、各教室でオンラインによる朝会が行われています。



低学年朝会  
(動画)



高学年朝会  
(動画)

## 全校演技発表会は、体育館でペア学級ごとに

5月の運動会は中止となりましたが、小学部の伝統的な取り組みである全校演技発表会の経験はさせたいと考えました。全校演技は異学年(1年生と5年生、2年生と4年生、3年生と6年生)ペアで行われます。学校再開前からオンラインで今年のダンスについて紹介し、学校が再開すると、体育の授業でダンスの練習を行ってきました。そして、10月8日(木)と9日(金)にペア学級ごとに保護者を集めて、体育館での発表会を行いました。毎年、大グラウンドでの華々しい全校での発表に、決してひけをとることのない子どもたちの熱演が披露され、保護者の皆様も感動してくださいました。



躍動的に踊る児童



体育館で全校演技発表会

## Go to ラベルを生かして社会科見学も再開

社会科見学も再開しました。3年生は相模原めぐりに出発。国道沿いや市役所近辺の風景、市内を通る鉄道や相模川などを見て回り、相模川ふれあい科学館やJAXAの見学を行いました。

6年生は、本来、泊まりがけの校外学習で出かけ

る富士山麓に日帰りで行きました。溶岩樹型やコウモリ穴、青木ヶ原樹海などの見学を通して、富士山の自然について学んできました。

バスの中の密を避けるために、バスの台数を増やして見学を実施。2席に1人が座る体制をとりました。GoToトラベルの恩恵もあって、台数を増やしても、通常より安くバスが利用でき、安全に見学を進めることができました。



富士山自然体験学校  
コウモリ穴にて



3年生社会科見学JAXAにて

### さらに学校行事を工夫して

小学部では、さらに学校行事を工夫して展開しています。

相生祭で行われる鼓笛パレードとグラウンドドリルは、6年生保護者のみの参観とし、11月6日(金)に学内で行いました。同じく相生祭で行われる劇の発表会はクラスごとに日時を決めて行い、保護者一名の参観に限定して披露しました。

相生祭で発表が予定されていた2、4年生の音楽による発表は、合奏発表の形で、12月の相模女子大学グリーンホールで行う「イングリッシュスピーチ コンテスト」に組み込み、九一日の開催として行います。

子どもたちにとって学校行事は、大切な成長の場です。できる限りの工夫をしながら、開催したいと考えています。

(小学部 澄井)



鼓笛発表会に向けて全校練習

### 認定こども園 幼稚園

#### コロナ禍の中で行われた真夏の入園式

1号認定(幼稚園部分)では、4月に行われる予定であった入園式が新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となり、その後も休園期間が続いておりましたが、7月からようやく通常開園となりました。その後、子どもたちと日々過ごしていく中で、特に新しく入園した子どもたちや保護者の皆様には改めて「入園おめでとう、これからよろしくお願いします」と伝える機会を作りたいという思いが強くなりました。そこで、年少クラスの担任を始め職員がアイデアを出し合い、新しい出会いへの喜びと、これから幼稚園で過ごす日々が一人ひとり楽しい日常となるよう願いを込め、8月1日(土)に真夏の入園式を行う事となりました。

当日会場となったホールには、アサガオやヒマワリの他に、海の生き物たちでカーテンを装飾し、子どもたちを迎えました。窓から入る風でカーテンが波のように揺れ、まるで海の中で行われている様でした。また、クラスごとに時間を分けて行われた式は、担任と子どもたちが日々の保育の中で親しんでいる手遊び等を楽しみ、それぞれの温かい雰囲気の中であつという間に時間が過ぎていき、例年の入園式では感じる事のできない一体感のある入園式となりました。何よりも今年も皆さんが笑顔で記念写真を撮影している姿を見ることができ、とても嬉しい気持ちになりました。

新型コロナウイルスによる様々な影響を受ける中ですが、子どもたちにとっては今しかできない日々の経験を、安全面に配慮しながら違った形で実現できるよう、これからもアイデアを出し工夫しながら向き合っていきたいと思っています。

(幼稚園 間部)



みんなで手遊び



真夏の入園式

#### コロナ禍での「運動遊びを楽しむ会」

幼稚園ではこれまで新型コロナウイルス感染対策に伴い、今年度の園行事をどのように行っていくかを日々探りながら保育を計画し実施してきました。中でも、毎年10月に開催している運動会については、感染対策を行いながらどのような形で実施できるのか、職員からの様々な意見を参考に検討しました。

その結果、今年度の運動会は中止とし、代わりに幼児(3、4、5歳児)クラスについては「運動遊びを楽しむ会」を開催することにしました。開催にあたっては、3密対策として、園児・保護者を完全入れ替え制としてクラスごとに競技や遊戯を行い、年長のみ学年で「リレー」と「さくらソーラン」を行うこととしました。



力いっぱい走ったリレー



青空の下さくらソーランを元気に踊りました

開催予定日の10月10日(土)及び11日(日)は台風の影響で中止となりましたが、年長クラスは10月26日(月)に、大学グラウンドで「運動遊びを楽しむ会」を行いました。秋晴れの高い空の下、真剣ながらも伸び伸びと「リレー」や「さくらソーラン」に取り組み子どもたちの姿から、子どもたちの大きな成長を感じることができました。年少・年中組は今後振り替えて別の日に行う予定です。

コロナ禍で園生活・園行事に様々な影響が出ておりますが、今後も感染対策を行いながらも子どもたちの成長につながる教育・保育に取り組みんでいきたいと思っています。

(幼稚園 井原)

# 学園各部 報告

## 大学・短期大学部

### Withコロナ時代の新しい就職活動に 対する支援を行っています

現在のコロナ禍において、学生の就職活動を支援する必要性が、さらに増してきている状況にあります。

一時期は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一部の企業の採用活動がストップしていた状況でしたが、「Withコロナ」といわれるようになり、企業は感染防止対策をしながら新しい採用活動を開始するようになりました。これまでほとんどの企業で個人面接や集団面接、集団討論等は対面で行われていましたが、現在では、多くの企業がWEBを利用した選考を行うようになってきました。このような新しい形態の採用活動に対応するため、就職支援課ではこれまで以上に様々な支援を行っています。

実施してきた新しい支援の一例として、WEB面接におけるマナー講座の開催やWEB個別面接練習をはじめ、多くの講座をWEBで開催してきました。さらには、大手就職情報サイトが主催する合同企業説明会が次々に中止となる中、他大学に先駆け、いち早く大学主催の合同企業説明会をWEBで開催するなど、様々な支援を行っています。一方で、対面で行えないものについては、感染防止対策を十分に行いながら実施して

います。  
今後時代の変化や学生のニーズに合わせた就職活動支援を行うことで、学生たちが希望する進路に進めるよう支援していきます。

### 神奈川つくい農業協同組合と産学連携 に関する協定を締結

8月11日(火)、本学と神奈川つくい農業協同組合は、相模原市緑区津久井地域の農業振興と「農」と「食」による地域活性化に関する教育・研究の発展に資するため、産学連携に関する協定を締結し、本学にて調印式が行われました。

2019年度には、社会マネジメント学科の授業「地域で学ぶ社会のしくみ」と「地域連携プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」において、神奈川つくい農業協同組合と連携し、津久井地域の農産物を用いた商品パッケージの企画提案に取り組み、同組合直売所である「あぐりんずつくい」において販売実習を行うなど、連携した授業を展開しました。

協定締結により、さらに連携を強化し、「農」「食」および「地域活性化」等に関する学修や研究など、多分野において官学双方が持つノウハウや情報を相互活用し、より効率的・効果的な事業展開を図り、地域活性化の推進に寄与します。



調印式の様子

### オンライン地域協働活動「群馬県富岡市の歴史・文化体験」郷土料理「おっきりこみ」づくりの実演」を開催

10月7日(水)、WEB会議システム「Zoom」を活用したオンライン地域協働活動「群馬県富岡市の歴史・文化体験」郷土料理「おっきりこみ」づくりの実演」を開催しました。

地域協働活動は通常、学生が現地に訪問し、地域の方々と交流をしながら問題解決に取り組みますが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、今回初めて富岡市の方々と学生が各自宅からオンラインでつながりました。

富岡市の歴史と文化のお話を伺ったり、おっきりこみの魅力を発信する学生団体「おっきりんピック宣伝部」による富岡市クイズが開催されたりするなど、地域についての理解を深めるとともに、伝統料理「おっきりこみ」の実演を通して地元の家庭の雰囲気に触れることができました。

参加学生からは、「とても楽しかった、ぜひ富岡市を訪問してみたい」「おっきりこみを自宅で作ってみたい」「今回のようなオンライン活動があれば今後も参加したい」等の感想が寄せられました。



おっきりこみの完成



実演の様子

### メディア情報学科 第44回メディアアトーク

#### 「学芸員の世界」開催報告

メディア情報学科では2020年度からカリキュラムを改定し、学芸員資格の取得が可能になりましたが、学芸員の資格と実際の仕事について知ってもらうために、学科学生を対象として8月20日(木)と9月3日(木)の両日に第44回メディアアトーク「学芸員の世界」を開催しました。

講師には鎌倉市鶴木清方記念美術館学芸員の今西彩子氏をお迎えしました。今西氏は、学芸員をめざしたきっかけ、学芸員の仕事の実態、苦勞する点ややりがい、学生の時にやっておくべきことなどを、ご自身の豊富な体験をもとに、具体的にわかりやすくお話しくださいます。学芸員をめざす学生にはたいへん有益なお話となりましたし、まだ資格取得の志望が定まっていなかった学生にも、学芸員資格に関心を持つきっかけとなり、理解を深めることができたと思います。

参加者が多くなることを想定し、十分な席間を確保するために、同一内容で2日間開催しましたが、両日ともそれぞれ約60名の参加者がありました。たいへん暑い時期に、新型コロナウイルス感染症の対策を取った中での開催となりましたが、参加者は熱心に聞き入っていました。



会場の様子

中学部・高等部

スポーツフェスティバルを終えて

新型コロナウイルスの影響で外出だけでなく、登校も制限され6月から始まった学校生活。

5月にあったはずの球技大会は中止になり、状況的に体育祭や相生祭の開催も難しくなりました。私達は体育祭実行委員三役として、昨年度からの流れを参考に、スケジュールを立てたり、スローガンを考えたりと、より良い体育祭開催に向けて活動していました。そんな中で、この行事に変わるイベントを作ることはできないだろうか、と思いました。「3年生としての思い出を作りたい」そんな想いからスポーツフェスティバルが生まれました。

私達は、私達が考えた企画を、私達自身で進めていく「生徒主体」をテーマにして企画を考案していきましました。スケジュールはもちろん、新型コロナウイルスへの対策を考慮しながら企画を考案するのは簡単ではありませんでした。

が、今までの体育祭や球技大会よりも楽しめるような行事にしたい、という一心で団結力を合わせて準備しました。

球技大会では自粛で貯まったストレスを一気に発散させ、どのクラスも、ど



クラス一丸となって取り組んだ球技大会

の競技も白熱した試合を繰り広げ、仮装では各クラステーマに添ってダンスを踊ったり演劇をしたり、例年よりもレベルの高い仮装が見られました。

私達運営側としては『ピンチをチャンスに』という言葉の意味が、この新型コロナウイルスの

お陰で良く理解できたような気がしました。この経験は今とは違う環境でそれぞれが生活する来年度以降にも役立つと思います。今回のスポーツフェスティバルは私達にとって、とても良い思い出になりました。

(副実行委員長 高橋)



笑顔があふれる仮装

中3マーガレットタイム

「母性を育む命の授業」

2学期に中学部3年の生徒たちは、赤ちゃんの生まれてからの成長過程を学んだり、妊婦ジャケッットを羽織ってお腹の大きい状態を体験したり、離乳食について学習をしたり、オンラインで赤ちゃんママさんたちと交流をしたりと、たくさん活動や体験をしました。

「お世話をしてくれた人の苦労がわかった」「妊婦さんのお腹を知った」「自分の名前の由来を聞いたり、お母さんと幼いころの写真を一緒に見たりして楽しかった。思春期でどうしても親に反抗してしまう今の自分を、少し冷静に客観的に

に見ることができた」「周囲に支えられ大切にされてきたからこそ今の自分があることがわかった」などと生徒たちは様々なことを感じてくれたようです。

生徒たちは最後に活動のまとめとして、「どんな人になりたいか」について作文を書きました。生徒たち一人ひとりにとって、「大切な命を育む可能性のある存在である自分」を客観的に見つめなおす機会としてもらえればと思います。

(中学部 松本)



胎動体験



妊婦ジャケッットを着て体験



オンラインで親子と交流

学校再開後の感染症対策(保健室より)

例年4月から5月いっぱいかけて実施している健康診断ですが、今年は3密を避けて7月下旬から11月にかけて慎重に実施しました。担当医と記録者は防護用ガウンとフェイスシールドを着用して、生徒毎に手指消毒を行っていただきます。生徒は登校時に加え、健診会場入室前に手指消毒と検温確認をしています。全ての会場で換気とプライバシー保護に留意しつつ、出入り口の接触面を極力なくす工夫をしました。



対策その1. 防護スタイルで「うつさない!」



対策その2. 手指消毒とソーシャルディスタンスで「うつらない!」

6月の生徒総会で中学部保健委員長3年1組の白濱さんが「少しでも長く学校生活が送れるように、3密を避け感染症対策をしていきましょう。」と呼びかけてくれました。その言葉に私たち教員も応えられるよう勤務員さんと協力し、生徒が活動し触れる場所の消毒作業をして衛生環境を安全に保てるよう努めてきました。新型コロナウイルスだけでなくインフルエンザ等が流行るこれからの季節を、整備した発熱者待機教室を活用し乗り越えてまいります。(中学部 春本)

小学部

5年生が自分たちで楽しむお祭りを企画

5年生が自分たちで企画してお祭りを開催しました。このコロナ禍の中、今年の夏は全く開かれなかったお祭り。子どもたちにとっては、とても残念な夏であつたと思います。

5年生はそんな思いを爆発させるかのように、自分たちで、お祭りを企画して開催しました。

場所は、百年桜に向かう途中の道路を会場にして計画。教室から椅子を運んだり、長机を運んだり大変なところもありましたが、力仕事には男子が積極的に動いてくれて、たくましさを感じました。「手伝って！」「これやって！」などと声をかけあいながらも、準備もとても楽しそうでした。

学年を前半と後半に分け、店員とお客さんにわかれ、呼び込みをしたり、他のお店をまわったりと、とても楽しそうに活動しました。自分たちの家庭から持ち寄った物を景品にして楽しみ、「先生、こんなのもらったよ。」と笑顔で教えてくれる人もいました。



射的を楽しむ5年生



道路がお祭り会場に

とができました。準備の段階では、意見の違いから言い合いになったこともあったようですが、最後には「楽しかったね」と終われた素晴らしい学年行事でした。



スーパーボールすくいは大人気



みんな遊びに来てくださーい

異学年との関わりを大切に子どもたち

小学部では、異学年の交流を大切にしています。そして、そのことは子どもたちの行動にも表れています。

全校演技発表会に向けてあとわずかなと、子どもたちは自主的に昼練習にも参加する子が多くなってきました。

全校演技発表会では、ペアとなる2年生と4年生。4年生の子どもたちから「2年生も昼の練習に誘えないかな？」という声が挙がりました。「その案、いいね！」ということになりました。今年度初めて、高学年としてペアの下級生と組むことになった4年生です。上級生の意識はとて高くなっています。さっそく

2年生の教室へお誘いに行きます。自分たちがお兄さん、お姉さんといえ、減多に無い自分たちからのお誘いです。少しドキドキしながら2年生の教室へ向かい、「お昼休みに、一緒に練習をしたいと思います。どうですか？」「本番まで、あと少しだから、2年生ともっと気持ちを合わせたいと思います。」「手の位置とか、細かい部分も、一緒に合わせたいと思います。」と話す、2年生が「一緒にやりたい！」と手を挙げてくれました。そして、2年生との昼練習が始まりました。給食を食べ終え、2年生を教室までお迎えに行く姿は、いつもよりちょっとお兄さん、お姉さんでした。

5年生では、本番前に一緒に組む1年生のために、お守りを作ってプレゼント。本番直前の教室に行って、手渡ししました。おそろいのお守りをポケットに忍ばせて、本番を頑張り大成功でした。

日頃の生活でも異学年の交流が見られます。

6年生が1年生の教室にお手紙を貼っていきつてくれます。遊びのお誘いや、遊び方を紹介したお手紙などで



おまもり



2年生と4年生と一緒に自主練習

す。ある雨の日の昼休み、6年生のお手紙には、紙を利用して作るバネの作り方が書かれていました。1年生はそれを見ながら工作を楽しんでいました。6年生の担任の先生によると、自分たちで自主的に始めた活動だそうです。とても、素敵な活動だと思います。

小学部 澄井

ジョーも交流したいがっぱ



工作を楽しむ1年生



お守りわらし



6年生からのお手紙

鼓笛発表会 全校で心一つに



素晴らしい晴れ舞台となりました

（小学部 澄井）  
11月6日（金）に鼓笛発表会が行われました。児童が校庭に集合するとお日様が顔を出し、子どもたちの気持ちを盛り上げてくれました。発表会の参観は、6年生の保護者に限定。大グラウンドでのグラウンドドリルと学内のパレードという形で実施しました。相生祭の中止で、鼓笛がなくなるのではと心配していた6年生ですが、一年間練習してきた6年生です。できる限りの晴れ舞台を用意したいと今回の発表会を企画しました。下級生も6年生の鼓笛隊と心を一つにして立派に演奏してくれました。素晴らしい発表会となりました。



学内で鼓笛パレード

認定こども園 幼稚園部

幼児クラス・年長さくら組

「お楽しみデー」

8月末にさくら組のお楽しみデーを行いました。今年度は新型コロナウイルスの影響で例年行っている一泊保育を行うことができませんでしたが、クラスごとに楽しい時間を過ごしました。当日はお楽しみゲームやスイカ割り、バーベキュー、花火大会など普段の保育では経験できないような活動を行うことができました。スイカが割れたときの嬉しそうな表情や自分の手で焼いたソーセージを美味しく食べる子どもたちの姿が印象的でした。

進級してから初めての大きな行事に参加し、クラスの友だちや保育者と楽しいひと時を共有することで団結力が芽生えたように感じます。今後も友だちと



スイカ割れたよ！

楽しさや喜びを共有したり、協力することの大切さを味わったりする機会を作りながら、子どもたちの豊かな心を育てていけるような保育を心掛けていきたいと思っています。（幼稚園部 谷口）



焼きそば美味しそう！



ソーセージ美味しく焼けるかな？

乳児クラス・りんどう組  
「夏の暑さも お水遊びで さっぱりと！」

長く続いた梅雨が明け、太陽がサンサンと輝き、セミの声が聞こえてくる夏の訪れとともに子どもたちの水遊びがスタートしました！



（幼稚園部 小堀）  
秋風を感じる時期となりました。夏を乗り越えて心身共に大きく成長した子どもたちと一緒に学内散歩へと出掛けて小さな秋を見つけてるのが楽しみです。



おみずもちいいね



せ〜ので、パシャ〜ン！！

今年度は新型コロナウイルスの感染対策を行い、例年とは異なるスタイルでの水遊びとなりました。密を避けて、こまめな水分補給や休息など体調管理には十分に気を付けながら夏ならではの水遊びをめいっぱい楽しみました。

初めの頃は、恐る恐る水に触れてみようとする子どもの姿も見られましたが、次第に慣れてくると「きょう、おみず？（きょうはおみずあそびする？）と登園して朝一番に保育者に聞いたり、友だちと一緒に水しぶきを上げながら笑い合ったり、そんな子どもたちの姿が夏の木漏れ日に照らされて、きらりと輝いていました。また、色水や氷などを作って水の変化を感じ、水への興味・関心を深めながら、子どもたちが夢中になってそれぞ



## 消費生活相談員として21年 仲宗根 京子

(昭和47年短期大学部英文科卒)



沖縄から進学のため、初めて本土に船で向かいました。当時は米国統治下にあり、渡航時にはパスポートが必要でした。船酔いに悩まされましたが、入学式の桜並木・桜吹雪の美しさは今でも忘れられません。2年間の寮生活も楽しい思い出です。

昭和47年は卒業の年でもあり、祖国復帰の年でもありました。卒業後は旧第一勧業銀行東京外国事務センターに入行、その後帰省し、平成13年に消費アドバイザーの資格を取り、消費生活相談員として沖縄県消費生活センターで勤務する一方で、NPO法人消費者センター沖縄を相談員仲間として立ち上げました。現在は県を含め12市町村等で消費生活相談業務を受託し相談員を配置しております。

勤務当初は訪問販売を中心に高額商品や高齢者を狙ったSF商法、人を紹介すると手数料が得られる、いわゆるマルチ商法等のトラブル相談が多く寄せられましたが、近年はIT環境の進展やグローバル化により、インターネットを利用したトラブルが急増し、取引内容も複雑・多岐にわたります。ネット通販で、お試し価格100円広告を見て申込したが、実は定期購入であり簡単に解約できないなどのトラブル、あるいは、簡単に稼げるなどのネット広告を見て高額

な情報商材を購入したが実際は儲からないなどのトラブルがあります。2022年度から成人年齢引き下げにより18歳から成人となりますが、若者の消費トラブルの増加が懸念されます。また高齢者の契約トラブルでは、契約額が高額なケースが多く、大切な年金を詐欺まがいの悪質商法などで失うことがないように、地域で悪質商法などから「高齢者を見守る活動」の取り組みも重要な課題になっております。更に今年は、新型コロナウイルスの世界的な発生により消費者庁は新型コロナウイルス給付金の詐欺に関する注意喚起を行っており「消費者ホットライン188」を紹介しております。

子どもから高齢者まで、さまざまな契約トラブルが発生しており、相談が寄せられると情報提供や助言を行い、場合によっては消費者と事業者の間に入り、話し合いでの解決を目指しますが、被害者を救済でき、相談者の喜びの声を聞くのは、相談員の喜びでもあります。これからも消費者と共に消費問題に真摯に取り組んでいきたいと思っています。何かありましたら、泣き寝入りせず、まずは消費生活センター（188イヤヤ）へ相談して頂きたいと思います。

## ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。  
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和2年3月末現在	令和2年9月末現在
マーガレット募金額	47,702,061 円	49,878,019 円

### マーガレット募金

#### 募金内容

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。

使途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

#### お申込方法 (個人の場合)

① お振込（郵便局または銀行窓口） ② 郵送（現金書留）またはご持参 ③ 自動振替での継続  
詳細につきましては、大学ホームページ(<https://www.sagami-wu.ac.jp/>)をご覧ください。下記事務局までお問い合わせください。

●マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課  
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-813-5030 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp  
●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先  
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 **相模女子大学**